

1 論 文

2 ダム工学の最終原稿作成例ならびに
3 スタイルシート4 著者 氏名¹ 五字 取り² 左右 中央³6 Style Sheets for Printing on Journal of DAM EENGINEERING,
7 Japan Society for Dam Engineering

8 Authors' NAME Familyname CAPITAL Center LAYOUT

9
10 このファイルは、ダム工学の完全版下原稿を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。と同時に、版下原稿そのものの体裁（A4 判）をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定の配置やフォントの原稿を作成することができます。この和文要旨の部分は、1 行 43 字詰めとし、センタリングの配置とします。和文要旨のフォントは、ゴシック体 9 ポイント (pt) を用いて下さい。和文要旨の長さは 6 行 (240 字) 以内とします。

16 キーワード（斜体）：明朝体、9.5 pt、5 語以内

18 1. はじめに	37	(スペースなし)
19 全てのページのマージンは、上辺下辺とも 25 mm、	38	キーワード：明朝体 9.5 pt
20 左右とも 18mm に設定して下さい。	39	
21 タイトル部分の左右のマージンは、本文の幅よりも	40	2. 本 文
22 さらに左右それぞれ 17 mm ずつ狭くとて、投稿区分	41	本文は、明朝体 9.5 pt、1 行 24 字詰め、1 段 40 行、
23 以外はセンタリングして下さい。	42	句読点は「。」「、」を使用し、英字・数字は Times
24 タイトル部分は、次の書式に従って下さい。 ()	43	New Roman 体を用いて下さい。
25 内のスペースは項目間の空きを示します。	44	
26 投稿区分：ゴチック斜体 12 pt	45	3. 見出し（見出しが 1 行以上に長くなるときはこの例
27 (約 5 mm のスペース)	46	のようにインデントして折り返す）
28 タイトル：明朝体 16 pt	47	見出しのレベルは、主として節と項の 2 段階としま
29 (約 5 mm のスペース)	48	す。節の見出しへは、ゴチック体 9.5 pt とし、3. などの
30 著者名：明朝体 11 pt	49	数字に続けて書き、上に 1 行空けて下さい。
31 (約 10 mm のスペース)	50	3.1 第 2 レベルの見出し（見出しが 1 行以上に長くな
32 英文タイトル：Times New Roman 12 pt	51	るときはこの例のようにインデントして下さい）
33 (約 5 mm のスペース)	52	第 2 レベルの見出しへはゴチック体 9.5 pt で 3.1 など
34 英文著者名：Times New Roman 11 pt	53	の数字をつけ、左詰めとして下さい。見出しの上にス
35 (約 15 mm のスペース)	54	ペースは空けません。
36 和文要旨：ゴチック体 9 pt	55	(1) 第 3 レベルの見出し（見出しが 1 行以上に長

¹ ダム研究所 ダム研究室、室長

² ダム大学 工学部土木工学科、教授

³ 株式会社ダムコンサルタント ダム部、課長

- 1 くなるときはこの例のようにインデントして折り
- 2 返す)
- 3 第3レベルの見出しあは、明朝体9.5ptで(1)などの
- 4 括弧付き数字をつけ、左詰めとして下さい。見出しの
- 5 上にスペースは空けません。
- 6

7 4. 図 表

8.4.1 図表の位置

9 図表は、それらを最初に引用する文章と同じページ
10 に置くことを原則とします（ただし、タイトルページ
11 には配置しない）ので、原稿末尾に一括してまとめた
12 りしないで下さい。また、図表はそれぞれのページの
13 上部または下部に集めてレイアウトして下さい（図表
14 で本文を分断する事がないようにして下さい）。図
15 表の横幅は、左右2段にまたがる幅か、1段の幅いっぱ
16 いとするかのいずれかとします。図表の幅を1段幅以
17 下にして図表の横に本文テキストを配置することはや
18 めて下さい。図表と文章本体との間には約1行の空白
19 を設けて下さい。

20 4.2 図表中の文字およびキャプション

21 図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎない
22 ように注意して下さい。少なくとも 9 pt 以上として下
23 さい。
24 図表のキャプションは 9 pt とし、センタリングしま
25 す。見出し番号のみゴチック体、他の説明部分は明朝
26 体とします。

28.5. 参考文献の引用とリスト

29 参考文献は、出現順に番号を振り、その引用箇所で
30 このように¹⁾上付き右括弧付き数字で指示します。参
31 考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとし
32 て示します。番号が複数になる場合は、^{1, 2), 3-5, 8)}
33 のように記載します。

34 なお、参考文献リストの後に 1 行空けて、（200〇年
35 〇月〇日受理）と日付を空欄にして右詰で書いて下さ
36 い。

38 6. 行番号

39 このファイルに設定されているとおり、ページごと
40 に振り直した行番号を付与してください。行番号が付

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

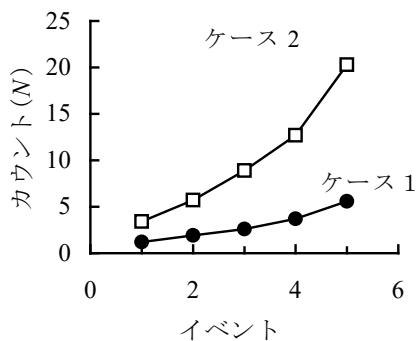


図-2 図のキャプションは図の下に置く

1 ○○○○○

2 6. 最終ページのレイアウトと英文要旨

3 最終ページの末尾には英文要旨 (Times New Roman

4 10 pt) を段落なしで書きます。英文要旨の後に改行し

5 て、続けて Key words (Times New Roman 10 pt) を記載

6 します。英文要旨・Key words は横 1 段組とし、幅は 2

7 段組の本文の幅よりも左右をさらに 17 mm ずつ狭くし

8 ます。

9 本文の最後には、参考文献 (明朝体 9 pt, 行間 14

10 pt) と原稿受理日 (明朝体 9.5 pt) を記載します。参考

11 文献、原稿受理日とともに、始まりの前を 1 行空けて記

12 載して下さい。

13 最終ページでは、2 段組部分の左右の終行が同じ高

14 さになるようレイアウトし、1 cm 程度の空白を入れて

15 英文要旨を配置します。

16

17 謝辞がある場合は、参考文献の直前に、本文とは 1 行空

18 けて、明朝体 9 pt で見出しを設げずに書き始めて下さい。

19 謝辞の部分の行間は 14 pt とします。

20

21 参考文献

22 1) 清水俊昭, 矢沢堅一, 丹羽 薫: 三春ダムさくら湖の

47

48

49

50

51 The present file has been made as a print sample of the PDF manuscripts for Journal of JSDE. Its

52 text describes instructions to prepare the manuscripts: layout; font styles sizes and others. If you

53 replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE

54 procedures, you can easily make your own manuscripts. This ABSTRACT has narrower width

55 than the main text by 17 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font

56 used here is Times New Roman 10 pt, Roman typescript. The length of ABSTRACT should be

57 within 250 words.

58 **Key words:** Times New Roman, 10 points, Roman typescript

59

23 水質保全対策, ダム技術, No. 143, 71–81, 1998

24 2) 工藤勝弘: 水質の改善技術, 環境技術, 29 (10), 30–

25 34, 2000

26 3) Shapiro, J.: Blue-green algae: Why they become dominant.

27 *Science*, 179, 382–384, 1973

28 4) Amano, K., Fujiwara, M. and Niwa, K.: Effect of artificial

29 circulation on water quality in a dam reservoir, 6th

30 International Conference on the Conservation and

31 Management of Lakes, Proc. 2, 985–988, 1995

32 5) ファン, Y.C.: 固体の力学/理論, 大橋義夫, 村上澄男

33 共訳, 培風館, pp. 102–107, 1970

34 6) Karniadakis, G.E., Orszag S.A., Suzuki, Y. and Yakhot, V.:

35 Renormalization group theory simulation of transitional and

36 turbulent flow over a back ward-facing step. *Large Eddy*

37 *Simulation of Complex Engineering and Geophysical Flows*,

38 Galperin, B. and Orszag, S.A. eds., Cambridge University

39 Press, Cambridge, pp. 159–177, 1993

40

41

42

43 付 錄

44 付録がある場合は「参考文献」の後ろに置き、「付

45 錄」と見出しを付けて、本文と同じ体裁 (明朝体 9.5

46 pt) で記載して下さい。

(2008 年○月○日 受理)